

バイオ系のキャリアデザイン

就職支援 **OG OB** インタビュー 編

Interview ①

KAICO 株式会社（営業開発部門・マネージャー）*

南畑 孝介



(*2019年秋執筆時点)

出身大学・卒業年度：九州大学大学院工学府化学システム工学専攻 2012年 博士課程修了
博士論文タイトル：酵素触媒のチロシルラジカル形成反応を利用した新規タンパク質集積化技術の開発

「現在の仕事について」

◆担当職務

カイコーバキュロウイルス発現系を用いたタンパク質生産を行うベンチャー企業において経理以外の業務を担当。

◆現在までのキャリアパスとその配属での仕事内容

2012年9月に博士取得後、東京大学で3年半、ポスドクと助教として働かせていただき、2016年4月にベンチャー企業を立ち上げるためのプロジェクトの特任研究員として九州大学に戻りました。2年間の開発期間を経て、2018年4月に創業メンバーの1人としてKAICO株式会社に入社しました。仕事内容は、営業広報活動、開発、生産を行っており、外回りをして、会社に戻れば実験をする日々です。

◆そこでのやりがい

自分が会社を回しているのだという実感をもって仕事ができることにやりがいを感じます。

◆現在の会社・組織（アカデミアを含む）の魅力

アカデミアでは決して会うことのなかったさまざまな分野の人と出会い、色々な価値観に触れることで、自分自身が成長していくことを感じられる点が魅力です。

◆現在の就職を決めた理由

周囲の期待と、「大金持ちになれるかも？」という淡い希望と、「きっと上手くいく」という根拠のない自信、そして「面白そう」という単純な好奇心で就職しました。

◆将来設計（描けるキャリアパス）

今の会社がIPOや買収されるなど、何らかの良い出口に到達した後に、別のベンチャーに移って、転々としていくことが最良のキャリアパスだと思いますが、仮に会社が潰れたとしても、これまでの経験を糧に、どこでもやっといけると思っています。

◆挑戦したいと思っていること

良いネタがあれば社長として起業してみたい。

◆社会人として一番感動したこと

苦勞して雀の涙ほどの量を納品した受託合成品について、依頼者の先生から「予想通りの結果が得られています」と報告を受けたときは、意味のないものを納品してしまったのではないかという不安が吹き飛び、お客様のお役に立つことができたという達成感で非常に感動しました。

◆社会人として一番困難だったこと&どう乗り越えましたか

生産系の立ち上げがスムーズに進まず、連日トラブルシューティングに追われ、キャパを上回る量の業務を続けていたとき、同僚に手伝ってもらうことで何とか乗り越えることができ、全部自分で抱え込むのではなく、仲間を頼ることも大事だと学びました。

◆仕事のプロになるコツ

責任感と誠実さをもって仕事に取り組むこと。

◆博士力、どこで発揮していますか？

顧客とスムーズに打ち合わせができていた時に、博士課程で培った論理的思考力が役に立っていると思います。

「人生について」

◆何のために働くのですか？

お金を得るためと自分の存在意義を感じるため。

◆ご自分にとって、お金を稼ぐ意味

お金は自由を得るためのツールだと考えています。

◆ワークライフバランスで工夫していること

模索中。ウェットな実験系なので、どうしても拘束時間が長く、大企業とは違い、個人の仕事量=会社全体の仕

事量になるので今は仕方ないと思っています。日曜日だけはできるだけ休むようにして、家族サービスをするようにしています。

◆現在の夢

ストレスを感じず常に全力で続けられる天職に巡り合うこと。

◆将来の展望

将来の展望を考えたことはないです。日々悩みながらも目の前のことに精一杯生きて、Steve Jobs の "connecting the dots" で、いつか後ろを振り返った時、点と点がつながっているように感じられれば良いと思っています。

「後輩へ」

◆学生時代にやっておいたらよかったと思えること
プログラミングなど、バイオと組み合わせたときに強力な武器になる一芸を何か身につけておけば良かったなと思います。

◆その他なんでも、後輩に伝えたいこと

先生の手足になって「実験」をした人と、自分の頭で考えて「研究」をした人とは、卒業時に大きな差がつきます。いっぱい考えて自由に楽しみながら研究室生活を送ってください。

連絡先 E-mail: kousuke373hata@icloud.com

Interview ②

特許庁 審査第三部 化学応用（塗料・接着剤）審査官

山本 悦司



出身大学・卒業年度：東京大学大学院工学系研究科化学生命工学専攻 2011年 博士課程修了
博士論文タイトル：Development of protein refolding additives and their applications
(タンパク質リフォールディング用添加剤の開発および利用に関する研究)

「現在の仕事について」

◆担当職務

2017年4月より、洗浄剤、インク、接着剤、塗料などの特許審査を行っています。

◆現在までのキャリアパスとその配属での仕事内容

2011年4月から2017年3月まで、株式会社TTCにて、食品のヒト臨床受託試験の計画・実施、法人営業を行いました。また、ヒト臨床試験の業務経験を活かして、技術士（生物工学部門）の資格を取得しました。

◆そこでのやりがい

複数の臨床試験を同時並行で行いつつ、依頼者、試験を実施する病院、検査会社などと日程や試験内容の調整を行う必要があったため、仕事の優先順位を決める段取りのスキルが身に付きました。また、臨床試験の結果次第では、論文化や、依頼者の商品が特定保健用食品として世に出ることが見られるのもやりがいでした。

◆現在の会社・組織（アカデミアを含む）の魅力

特許審査官は、特許出願を、技術的観点、法律的観点から精査し、排他的独占権である特許権を付与するか否かを判断します。審査の過程で、常に先端の技術に関わる

ことができることや、知的財産（知財）法の改正や特許庁の施策など最新の情報に触れられることが魅力です。

◆現在の就職を決めた理由

大学時代より特許をはじめとする知財制度に興味がありました。そして、研究開発などの経験者を対象とした任期付特許審査官補の募集があることを知り、特許関係の仕事に携わるチャンスと考え、現在の職場に移りました。

◆将来設計（描けるキャリアパス）

まずは、現職の任期満了まで勤め上げたいです。現在の夢（後述）はありますが、それに固執せず、その時に面白いと思えるものがあれば、挑戦してみようと思います。

◆挑戦したいと思っていること

知財に関する書籍（知財の活用や価値評価、外国の知財制度など）の読破や、技術や法律のセミナーの受講をし、特許審査実務を核としつつ、自分の仕事の幅を広げたいと考えています。

◆社会人として一番感動したこと

特許庁入庁3年目に、審査官に昇任し、初めて自分の名前で特許査定を行ったことです。これまで、指導いただいた指導審査官、管理職の方々への感謝を忘れず、職場に貢献できる人材になりたいと思います。

◆社会人として一番困難だったこと&どう乗り越えましたか

前職では、仕事の進め方、段取り、要領があまり良くありませんでした。当時の上司からは、「分からないのであれば、考えこまず、周りの人に相談する（考えこんでいる時間は、会社のコスト）」「締め切りから逆算して、余裕をもって業務を進める」などとアドバイスされましたので、現在の職場ではそれらの点について心掛けるようにしています。

◆仕事のプロになるコツ

「何としてでも結果を出す」という意識を持つことです。博士課程のときは、実験結果があまりポジティブではない場合でも、研究の新規性をアピールし、論文をアクセプトに持ち込んだことがありました。また、現職では、審査の質を保ちつつ、迅速に審査結果を発信できるよう、常に意識をするようにしています。

◆博士力、どこで発揮していますか？

博士課程を通じて、得られた実験結果の中から、何らかのポジティブな面はないかと考える癖が身に付きました。現職の特許審査においても、審査対象となる特許出願の拒絶理由を探すだけでなく、技術的に優れた点にも着目するようにしています。

「人生について」

◆何のために働くのですか？

何よりも家族のためです。また、仕事を通じた自身の成長と、社会への貢献ができればと思っています。

◆ご自分にとって、お金を稼ぐ意味

家族の生活のため、自分自身への投資（セミナー、書籍購入）のためです。

◆ワークライフバランスで工夫していること

20時半までに子供たちをお風呂に入れることを念頭に、仕事を行っています。なお、仕事の進捗が遅いときは、家族に、この日は残業をすると事前に伝えるようにしています。

◆現在の夢・将来の展望

技術者と審査官の経験を活かし、特許明細書の作成だけでなく、「強く・広く・役に立つ特許権」が得られるようなアドバイスができる知財コンサルタントを目指します。また、クライアントの知財戦略の策定や実行に関わる仕事にも興味があり、それらを学ぶため、知財アナリストのセミナーを受講し、資格を取得しました。

「後輩へ」

◆学生時代にやっておいたらよかったと思えること
留学です。また、語学力を磨くことや、海外旅行、留学生との交流をもう少し積極的にやっておけばと思います。

◆その他なんでも、後輩に伝えたいこと

これがやりたいという夢が決まっている人は、そのまま突き進んで、是非夢をかなえてください。夢が決まっていない人は、まずは目先の研究、仕事、課題などにを全力で取り組んでみてください。そうすると、目標が見えてきたり、チャンスがやってくると思います。意志あるところに道は開けます。応援しています。

※本インタビューは個人の見解であって、所属組織を代表するものではありません。

連絡先 E-mail: yamamoto-etsushi@jpo.go.jp